



Kumagaya

主な内容

P2 市長 新年のごあいさつ / 新春座談会

8 市政ワイド 大里広域市町村圏組合介護保険特別会計決算
平成18年度上期財政事情の公表 ほか

10 市政情報 入学準備金をお貸しします ほか

17 くらしの情報 催し・講習・募集・試験・スポーツ・相談

22 いきいき元気 みんなの健康

P25 文化施設情報

28 くまがやフォトニュース

30 くまがや東西南北
・市報クイズ・おたよりパレット

31 江南町を紹介します

32 夢追い人・フレッシュクッキング



青空に映える熱気球と くまがやドーム(熊谷市産業祭にて)

県北初の20万都市が誕生する新年を迎え、歴史と伝統に彩られた熊谷市の未来は、この青空のように限りなく広がります。



学校を卒業した後、熊谷工業高校に進み、そこからラグビーを始めました。熊谷工業では、1年生のとき全国大会で3位、2

市長 堀越さんが、立正大学の監督として熊谷に戻ってきてくれたことは、大変うれしく思っています。



郷土に

寄せる思い

熊谷の好きなところ

年生でも3位、そして3年で準優勝を経験し、その後早稲田大学に進学しました。
卒業後は、神戸製鋼に8年間在籍し、V4からV7までを経験しました。30歳のときに立正大学の監督に就任して、今年で8年目です。そして、2年前に大学ラグビー1部リーグに昇格することができました。

安藤 私は吉岡小学校、吉岡中学校を卒業後、熊谷工業高校に進学しました。3年間花園には出場できませんでしたが、その後進学した早稲田大学では、2年生と4年生のときに大学日本一を経験しました。現在は、NECグリーンロケッツに在籍しています。
司会 熊谷市出身のお二人より、熊谷の好きなところをお聞かせください。
堀越 やはり、美しい熊谷の桜ですね。立正大学も桜の木がたくさんありますので、桜の花を見ながらのラグビー練習は非常に気持ちのいいものです。また、

中央集権から地方分権へ、地方にできることは地方にということが求められている今日、持続的発展を支える自立性の高い行政基盤の構築と暮らしに密着した質の高い行政サービスを通して、豊かさの実感できるまちづくりに努めてまいります。



お花見客でにぎわう熊谷の桜堤

新年のごあいさつ



熊谷市長 富岡 清

新年明けましておめでとうございます。市民の皆様には、希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素より市政運営につきまして、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
熊谷市は、明治21年(1889年)4月1日に熊谷宿と石原村とが合併し、約1万1千人の熊谷町ができて以来、他都市からの転入や近隣町村との合併を繰り返しながら、118年の時を経て、本年2月の江南町との合併により、県北初の20万都市へと大発展を遂げてまいります。
元日の凛とした朝、私は、郷土熊谷の発展のために尽力をいただいた幾多の先人たちに心から感謝をいたしますとともに、先人の皆様から渡されたバトンをしっかり握り、活力と情熱を持って新生熊谷市のまちづくりを行ってまいります。心から誓ったところでございます。
いま、わが国は急速に進展している少子高齢社会の到来に伴って、戦後初めての人口減少を経験するなど、国・県・市町村とも非常に厳しい財政負担を強いられる中で、地方自治は明治以来の大変革の時期にあります。

このため、まちづくりの理念の一つに「市民との協働を掲げさせていただきました。子育て・教育環境の充実、安全・安心のまちづくりへの取組み、健康・福祉、環境、産業振興、都市基盤等の整備など、それぞれに市民の皆様と協働してまちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。
私は、この熊谷市を「誰もがチャレンジできる元気なまちに、誰にも優しいハートフルなまちに」するために、そして熊谷新時代を築くために情熱を持って歩み続けます。皆様方には一層のお力添えをお願いいたします。
新しい年が、皆様にとりまして素晴らしい年となりますように心からお祈り申し上げます。新年のあいさついたします。

スポーツを通して熊谷を語る



熊谷を代表するスポーツ選手である、立正大学ラグビー部の堀越正己監督と本市出身でNECグリーンロケッツの安藤栄次選手をお招きし、市長を囲んでお話をさせていただきました。

市長 明けましておめでとうございます。熊谷市は、今年の2月13日に江南町と合併をします。いよいよ人口20万人を超える都市となり、県北の中核都市としての更なる発展を目指しています。私は「熊谷新時代」を拓くため、目標を明確にし、それぞれの分野で具体的な約束をしています。その中で、熊谷市は「スポーツ熱中宣言都市」を掲げ、スポーツを通して子どもたちの健全育成や、活力ある元気なまち

づくりを目指しています。そこで、本日は、早稲田大学ラグビー部で活躍され、日本代表試合に27回出場し立正大学ラグビー部の1部リーグ昇格に尽力された堀越監督、そして、熊谷工業高校から早稲田大学、

そしてNECグリーンロケッツから日本代表に招集された安藤選手のお二人を迎え、スポーツの視点から見た熊谷とこれからの展望について、大いに語り合いたいと考えておりますので、ぜひ素晴らしいご意見をお聞かせください。よろしくお願いたします。

市長 子どももの頃、屋台を引いたりした思い出がありますか。
安藤 毎年、屋台を引っ張ったりして祭を楽しみました。また、屋台に乗って太鼓を叩いたことも2回あります。

市長 熊谷つつわ祭は、今でも

【プロフィール】



堀越 正己さん

熊谷工業高校ラグビー部のスクラムハーフとしてチームをまとめ、全国準優勝に導き、早稲田大学へ進学する。卒業後は神戸製鋼ラグビー部で活躍し日本代表試合27回出場の記録を持つ。平成11年には立正大学ラグビー部監督に就任し、平成16年に一部リーグ昇格をはたす。

【プロフィール】



安藤 栄次さん

熊谷工業高校時代にはU-19日本代表にも選ばれ、卒業後は早稲田大学ラグビー部でスタンドオフとして活躍する。現在NECグリーンロケッツに所属しトップリーグの現役選手として活躍しており、日本代表として7回の試合に出場をはたす。



(C) NEC SPORTS

「関東一の祇園」として全国的に有名で、桜と同様に全国から人々が集まり毎年大変盛り上がりします。

熊谷で幼いころ

培ったこと

司会 お二人が幼い頃、熊谷で育つ過程で培ってきたこと、学んできたことはどんなことがありますか。

堀越 子どもの頃、私は熊子連に入っていました。実は、子どもの頃は野球選手になりたかったんです。佐谷田タイガースというソフトボールチームに入っていて、ずっと監督やコーチな

ど親以外の人々と触れ合いながら、叱られたり、皆で協力したりしながら、いろいろなことを教わったなと感じています。

市長 熊子連は去年40周年を迎えました。ソフトボールなどのスポーツだけではなく、現在ではカルタ大会やウォークラリー、絵画展など、堀越さんの子ども時代には無かったようなイベントもあります。少子化の影響で、ソフトボールのチーム数は、以前に比べてぐっと減ってきているのが残念ですが、スポーツが得意でない子どもたちのために、スポーツ以外のイベントも企画し、とてもがんばっているようですね。

安藤 私は、子どもの頃はずっと



うちわ祭巡行祭での弥生町の屋台



と熊谷サッカースポーツ少年団でサッカーをやっていて、いつも荒川河川敷のグラウンドで練習をしていました。

スポーツ少年団では、いろいろな小学校に友達が来て、それらの友人との触れ合いが、とても印象に残っています。

市長 ラグビーの名選手であるお二人がソフトボールやサッカーと幼少時代は別のスポーツをやっていたというのは大変面白いことですね。

昨年1年間の活躍

司会 堀越監督率いる立正大学ラグビー部の1部リーグでの健闘や安藤選手のラグビー日本代表選出など様々な活躍が目立った1年でしたが、昨年を振り返りどのような1年であったと思

また、スポーツを通しての健康づくりや福祉の充実について、どのように力を注ぐべきだと思いますか。



ぜひ、今年も活躍して、若い後輩たちの目標となつてほしいと期待しています。私も監督として立正大学ラグビー部を早稲田大学に負けないようなチームに鍛え上げ、地元の優秀な後輩たちが立正大学ラグビー部に入ってくれるようがんばります。

市長 熊谷出身のラグビーのお二人には、監督として、選手としてそれぞれの道でのますますの活躍を熊谷市長として期待しています。

スポーツ熱中宣言都市熊谷の未来像

司会 スポーツマンとして、「スポーツ熱中宣言都市」である熊谷市にどんな都市になつてほしいですか。

が健全に育ち、そしてまちには活気があふれる、そんなまちに熊谷がなつてくれることを願っています。

市長 総合型地域スポーツクラブは、熊谷では、芽生え的な団体はありますが、皆さんを受け入れるまでには成長していないのが現状です。われ

いますか。

堀越 一昨年は、1部リーグに昇格した年でもあり、とにかく1勝しようというのが目標でした。昨年は、2年目ということで目標を一つ上げ、リーグ戦で3勝し、大学選手権に出場して1回戦を勝つのが目標でした。しかし、予想以上にいろいろ大変なシーズンとなり、結果的には目標を達成することができずに悔しい思いをしました。大学や応援してくださった皆さんの思いに答えられませんでした。この試練を乗り越え、一皮むければ立正ラグビー部は必ず強くなると信じて、来シーズンにつなげる我慢の1年であったと思います。

市長 監督として大変な1年だったと思いますが、人工芝グラウンドの整備など、大学側のラグビー部に対するバックアップ体制は素晴らしいものがありますね。ラグビー部に期待する大学側の思いが感じられます。それに後援会も組織され、ラグビー部を地域の人たちが応援してくれているのもありがたいことではないですか。



いただいていることには本当に感謝しています。これからは、さらに多くの市民の皆さんに応援していただけるよう、いろいろな所で立正ラグビー部をアピールし、立正大学について、また、ラグビーについてよく知っていただきたいと思います。そして、実際にグラウンドに足を運んでいただき、観戦した皆さんに選手のファイトあるプレーが感動と力を与えられれば嬉しいです。

市長 この対談は、そのような監督の思いが市民に伝わるよい機会であったかもしれませんね。ぜひ今年もがんばってください。

安藤さんにとっては、昨年はどんな1年でしたか。

安藤 1年目は日本一を経験させていただきました。そして昨年は連覇を目標に、後半節は日

が減れば医療に対する出費も抑えられる効果もあります。

安藤 熊谷市がスポーツ熱中宣言都市として、市を挙げてスポーツをやっていく私たちにとってありがたいことです。自分はラグビーをやっていますからラグビータウン熊谷として、もっとラグビーが盛んになってくれればいいと思っています。ラグビーは危険なスポーツのイメージがありますが、ラグビーなど男女を問わず、年齢を問わずできる種目もありますので、ぜひ、子どもたちにもやってほしいと思います。そして、ときには立正大学の学生や高校生と一緒にラグビーができれば、選手を身近に感じられ、

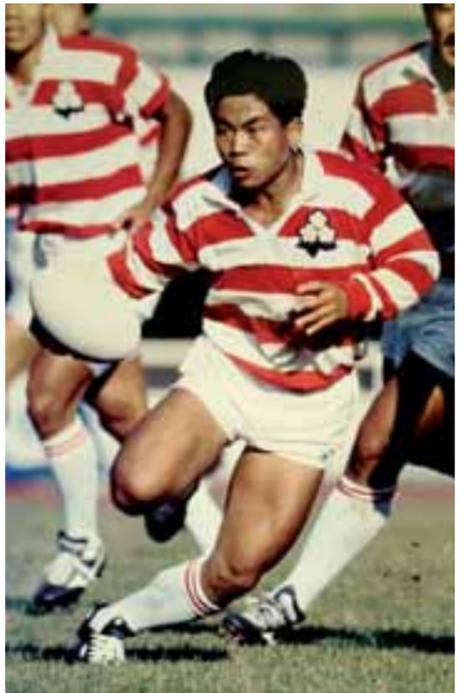


われも努力が足りないのかも申しませんが、老いも若きも、男女を問わず、多くの市民がスポーツを楽しめる環境づくりが必要ですね。そうすれば市民の健康づくりに役立ち、病気になる人



(C)2006,JRFU(Photo by H.Nagaoka)

日本代表として出場する安藤選手



日本代表当時の堀越監督

ラグビーがもっと認知されてくると思いますが。こうした交流を通して市に活気が生まれてくるのではないのでしょうか。

市長 熊谷はラグビータウンを標榜していますので、いろいろな場面でラグビーを楽しめる環境を整備できればと思っています。それには安藤さんがおっしゃったように、けがの心配もなく楽しめ、男女が一緒にプレイできるラグビーは、熊谷でも多くの小学生がやっていますので、市としても応援していきたいと思っています。

このようにしてラグビーに興味をもった子どもたちが中学生になって、スポーツをやる意識と体ができたときに本物のラグビーに親しめれば良いと思います。

熊谷市の子どもたちのメッセー

司会 今、様々なことに挑戦している子どもたちにお二人からメッセージをお願いします。

堀越 この前も星宮小学校で講演を行ったのですが、その際に父兄の方にお話を聞いてみると、なかなか子どもを外に出づらな状況で、帰る時にまで地域のボランティアにお願

いしながら帰って



いながら帰って

いて、安全に過ごせないそうです。子どもたちもストレスを感じているんじゃないのかなと思います。そのストレスを発散するのでも家でゲームをするのではなく、友だちの輪や子ども会などに参加して汗を流すことによつて、目には見えないストレスなども解消できたり、親以外の大人と触れ合うことで色々な悩みも解消されると思うので、熊谷の子どもたちには外に出て汗を流してほしいですね。体も心も元気になるんじゃないかなと思います。

市長 そうですね、どうしても今の子どもたちはテレビゲームに熱中したりして家の中で遊ぶ時間が多いみたいですね。我々が子どもの頃のように学校から帰ってきてランドセルを放り投げて外に遊びに行くって

がおっしゃったように他人の大人と触れ合うってことはスポーツの世界では当たり前の話なんですよね。
堀越 子どもたちにはそういう機会があまりないんじゃないかと思うんです。
市長 子どもたちも色々な大人と触れ合うことによつて気持ちをリフレッシュするってことが大切なんじゃないかな。それにはスポーツが一番だと。それが堀越さんの持論なんですね。
安藤 私は、なんでも良いと思うんですけど少しでも興味を持つたものにチャレンジしてほしいです。たくさんチャレンジすることによつて自分の目標がはっきりすることもありますが、少しでも好きなことにチャレンジしてほしいと思います。
市長 安藤さん自身もそうしてきたんですね。ラグビーに最初に出会ったときの印象はどういったものだったんでしょうか。
安藤 自分のおじがラグビーをやっていたこともあって、溶け込みやすかったです。
市長 なるほど。それでラグビーにチャレンジしてみようと思っただんですね。小さな子どもたちもいろいろな意味で、安藤さん



がおっしゃったようにスポーツも勉強もチャレンジ精神が大切ですからね。私も「チャレンジタウンくまがや」を一つの柱にしています。我々行政の仕事でもチャレンジすることが大切だし、子どもたちは子どもたちなりに目標を見つけてチャレンジすることが重要ですよ。
司会 安藤選手の座右の銘はどういったものでしょうか。
安藤 熊谷工業高校ラグビー部の塚田先生がよく言っていたんですが「挑戦するものだけにチャレンジはある」ですね。
市長 いい言葉だなあ。確かにそうですね。堀越さんの座右の銘はなんでしょうか。
堀越 「日々新た」と「感謝」です。最近はいろんなことに「感謝」の気持ちを持っています。早稲田大学、日本代表に行

けたのも周りの人たちがいてくれたおかげですし、もちろん両親もですが、本当に自分の歩みを振り返ると周りの人たちに支えられてきました。今も本当に立正大学でラグビーをやっている、後援会の方々に支えられて感謝の気持ちを持っています。

今後の展開と抱負

司会 監督と現役選手として活躍しているお二人のこれからの抱負についてお聞かせください。

堀越 チームとしての抱負は、「母校である早稲田大学と国立競技場（大学選手権の）決勝戦を戦うこと」です。今はまだ夢という段階ですが、これを目標の域に達するようにこの一年頑張っていきたいなと思います。そのことが熊谷市民の方々に勇気を与えられるのではないかなと思います。
市長 もしその夢が現実のものとなると市民の中でどつちを応援するか迷う人もいっぱい出てくるんじゃないかなと思います。でも、やっぱり素晴らしいことですよ。国立でやる、そのときは立正大学をちゃんと応援しますからね。

堀越 はい、よろしく願います。
司会 安藤選手はいかがですか。
安藤 私はまだ現役生活があるので、日々努力して、一つでも上を目指して、毎日がむしやらにラグビーに取り組んで行きたいです。

市長 そのためには一戦一戦大切にしながらプレイしなくてはならないんでしょうね。頑張ってください。
司会 最後ですが、お二人に市長からメッセージをお願いします。



練習を見守る堀越監督

最後ですが、お二人に市長からメッセージをお願いします。

市長 今日はとても素晴らしい機会をいただいております。お話をうかがっている中で、お二人のラグビーにかける想いをひしひしと感じています。堀越監督は、まさに指導者として、高いポジションから広くものを見なくてはならないという立場ですが、ラグビーを教えるだけではなく、人間「堀越」を教えるというふうな理想を掲げて頑張っていると思います。立正大学ラグビー部も、熊谷市民の皆さんも、堀越監督にかける期待は大きいなと感じます。私たちもできるだけ応援したいと思っています。安藤さんには一戦一戦大切に、先程話していたように一つでも上を目指して頑張ってください。



思います。ただ、ケガだけは気をつけてください。安藤さんを目標に頑張ろうという子どもたちが、小学校や中学校にいつばいいと思いますから、そういった後輩たちの期待に応えられるよう頑張ってください。大いに期待しています。
今日は本当にありがとうございました。

読者プレゼント



今回、市長新春座談会にご出席いただきました堀越正己監督と安藤栄次選手からサイン色紙をいただきましたので、抽選で5人にプレゼントします。

【応募方法】 ハガキまたはEメールに、「サイン色紙希望」と明記し、住所・氏名・年齢・電話番号を記入の上、1月22日(月)までにご応募ください(1人につき1通)。当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。(Eメールアドレス) kohokocho@city.kumagaya.lg.jp

裏
サイン色紙希望
住所
氏名
年齢
電話番号

表
熊谷市宮町二丁目47番地1
熊谷市役所
広報広聴課
〒320-0801